

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(平成31年2月分)

平成31年3月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

イ スルプスカ共和国(RS)

ウ ブルチュコ特別区

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構 (EU加盟プロセスを含む)

(2) 二国間関係

当該月、日・BH関係に関する主だったニュースはなし

3. 経済

(1) 経済政策、公共事業

(2) 経済・開発協力

(3) 民間セクター

(注: 以下は、現地紙など公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

欧州委員会による追加質問への回答提出

24日、BH閣僚評議会(暫定政府)は、電話会議を行い、欧州委員会による655問の追加質問への回答の最終版につき全会一致で合意。その後、BH欧州統合局は、回答を正式に提出した旨発表した。

過去5年間でBHを離れた国民は17万人超

27日付当地紙によれば、NGO「BHへの持続可能な難民帰還と統合組合」が記者会見を行い、過去5年間にBHを離れた国民は17万

3,000人、48,932世帯に上り、戦後23年の間に、7万3,011人がBH国籍を手放した旨発表した。

BH議会上院の発足(28日)

28日、BH議会上院の発足会合が開催され、イゼトベゴビッチ議長(SDA党首、前BH大統領評議会ボシュニャク系メンバー)、チョービッチ第一副議長(HDZ党首、前同評議会クロアチア系メンバー)及びシュピリッチ第二副議長(SNSD副党首、セルビア系、元BH閣僚評議会議長)が選出された。なお、議長は、この3名による8ヶ月毎の輪番制となる。

同日、BH国家レベルで唯一発足していない閣僚評議会の発足見通しに関し、イゼトベゴ

ビッチ議長は、3月中に連立交渉が終わり3月末まで発足することを望んでいる旨述べ、チャービッチ第一副議長は、連立参加政党の党首間で合意できると信じていると述べた。2月中には、SDA、HDZ及びSNSDの党首会談やSDAとその他のボシュニャク系政党の間で、連立交渉が行われている。

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

中央選管、BH連邦議会上院議員の指名を承認(14日)

中央選挙管理委員会のBH連邦議会上院議員の選出規則に関する決定への違憲申立てを棄却した1月31日のBH憲法裁決定を受け、10のカントン議会が指名した議員に対し、14日、BH中央選管は、これを承認。なお、民族別の議員団は、3民族17名ずつとその他の民族7名で形成されるが、人口不足によりセルビア系が3名不足している。

BH連邦議会上院発足会合の開催及び2019年予算の成立(20日)

20日、上記中央選挙管理委員会による議員指名の承認を受けて、定員58名の内、不足しているセルビア系3名を除く55名により、BH連邦議会上院の発足会合が開催された。また、同日発足会合に続き行われた会合において、同上院はBH連邦2019年予算を約26億5,380万KM(約13億5,690万ユーロ)で採択。右予算は既に同下院で採択されており、この採択をもって成立した。

イ スルブスカ共和国(RS)

RS政府、スレブレニツァ等に関する新調査委員会の立ち上げ(7日)

7日、RS政府は、1992年～1995年のスレブレニツァにおける全住民の被害に関する独立国際調査委員会及び1991年～1995年のサラエボにおけるセルビア系住民の被害に関する独立国際調査委員会の、2つの国際的独立組織を立ち上げ、メンバーを任命した旨記者会見で発表した。両右2委員会は12カ国のメンバーからなり、スレブレニツァ委員会はグレイフ・テキサス大学教授が、サラエボ委員会はイスラエリ・エルサレム・ヘブライ大学教授が委員長を務める。

ウ ブルチュコ特別区

スカンラン新監理官のブルチュコ訪問(21日)

21日、スカンラン新副上級代表(米國務省出身)は、ブルチュコ特別区新監理官(右は副上級代表との兼任ポスト)として、同特別区を公式訪問し、ミリッチ市長(SNSD)、カドリッチ議会議長(SDA)及びドミッチ副議長(HDZ)等と個別に会談を行った。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

ツルナダク外相、ISIS対策グローバル連合閣僚会合に出席(6日)

6日、ツルナダクBH外相は、ポンペオ米國務長官の招待で、ワシントンで開催されたISIS対策グローバル連合閣僚会合に出席。同外相は会合において、BHには多くの政治的困難がある一方で、対イスラム過激派及び対テロへの取組については、RSとBH連邦が強い合意と結束の下、連携して取り組んでいる旨述べた。

欧州ユース・オリンピックの開催(10日～15日)

10日～15日、サラエボ市(ボシュニャク系主体、BH連邦)と東サラエボ市(セルビア系主体、RS)において、両市の共催で「欧州ユース・オリンピック2019(EYOF2019)」が開催された。

EYOF2019は戦後初のエンティティを跨いで開催される平和の祭典として注目されたが、10日にサラエボ・オリンピック・スタジアムにおいて実施された開会式では、ドディックBH大統領評議会議長(セルビア系)によるスピーチの最中にブーイングが沸き起こった。RSの政治家は、軽蔑的な反応であるとしてこれを非難した。

ズビズディッチ閣僚評議会議長、ミュンヘン安全保障会議に出席(15～17日)

15～17日、独のミュンヘンにおいて、第55回ミュンヘン安全保障会議が開催され、BHからズビズディッチ閣僚評議会議長が出席した。同議長は、ハーン欧州近隣政策・拡大交渉担当欧州委員がモデレータを務めた「南東欧の安全保障」パネルに、ブチッチ・セルビア大統領及びサチ・コソボ大統領と共にパネリストとして参加した。また、会期中、ストルテンベルクNATO事務総長とも会談を行い、NATO加盟のための行動計画(MAP)の初年度年次計画をめぐる情勢につき報告を行った。

(2)二国間関係

シャロビッチ対外貿易経済関係相、新任中国大使と更なる経済関係の強化を合意(11日)

11日、シャロビッチ副首相兼対外貿易経済

関係相は、新たにBHに着任したJi Ping中国大使と会談を行い、現在約7億万KM(約3億5,800万ユーロ)に上るBH・中国間貿易額を更に拡大していくことで意見が一致。また、「16+1」の枠組みを通じて、火力発電所等のエネルギー・セクターや道路建設等のインフラ関連を中心として、今後も大型国際プロジェクトを推進していく旨合意した。

新米国大使の着任(19日)

19日、ネルソン新米国大使が、ドディックBH大統領評議会議長(セルビア系)に対して、信任状の捧呈を行った。その後の会談において、ネルソン大使はBHのNATO及びEU加盟プロセスへの支援を喜んで行う旨述べたが、ドディック議長は、NATO加盟についてはBH内で合意が形成されていない旨強調した。なお、ドディック議長は、米務省より制裁を課されている。

ドディック議長、ブチッチ・セルビア大統領と会談(21日)

21日、ドディック大統領評議会議長(セルビア系)がベオグラードを訪問し、ブチッチ・セルビア大統領と会談した。両大統領は、コソボ問題について協議した他、ドディック議長は、ブチッチ大統領に対しBHの新政府発足の見通しについて報告した。

コムシッチ大統領評議会メンバー、北マケドニアを訪問(25日)

25日、コムシッチ大統領評議会クロアチア系メンバーが、北マケドニアを訪問し、2014年にBH上空の飛行機事故で亡くなった故トライコフスキ元大統領の追悼式典に参加した他、ザエフ首相等と会談し、両国の欧州大西洋統

合について意見交換を行った。

RS・セルビア合同閣議の開催(28日)

28日、ベオグラードにおいて、RS政府とセルビア政府が合同閣議を開催した。両国は、エネルギー及び交通分野等での協力に関する覚書に署名を行った。

3. 経済

(1) 経済政策、公共事業、

4月のモスタル・フェアのパートナー国は中国

13日及び16日付当地紙によれば、4月9日～13日まで開催予定の第21回国際物産品展(モスタル・フェア)のパートナー国は、2回目となる中国。事務局によれば、同フェアには、中国から、通信、エネルギー、農業分野等の同国最大企業が参加する他、中国の文化や伝統に関するイベントも開催される。

EU、BHによる資金洗浄、テロ資金対策を評価

18日付当地紙によれば、BHは最近、EUによる資金洗浄及びテロ資金対策に関するブラック・リストから削除された。なお、最終手続きには、EU加盟全28ヵ国による新リストの承認が必要で、今後1～2ヶ月を要する見通し。

EU、BH産の鶏肉の輸入を許可(25日)

25日、EUは、BHからの鶏肉の輸入を許可した。これは、EUの全加盟国で構成されるEU動植物・食品基準委員会が、BHにおけるEU関連改正法の発効に伴い、許可に踏み切ったもの。対EU輸出の開始には、品目ごとに右委員会による手続きが必要となる。

(2) 経済・開発協力

EBRD、サラエボにおいて環境調査のプロジェクトを開始

13日付当地紙によれば、欧州復興開発銀行(EBRD)とサラエボ・カントンは、同カントン内の環境課題の優先順位付け、及び、欧州で最も大気が汚染された都市の一つとされるサラエボ市の大気汚染状況調査を目的とした共同プロジェクトを開始した。

同プロジェクトは、EBRDによるグリーン都市開発にむけた、融資、技術支援及び戦略策定も含むビジネス・モデルの提供を目的としたグリーン・シティ行動計画(GCAP)の一環。

なお、本事業の経費30万ユーロは日本からの無償資金によるもの(当館注:日本がEBRD内に設けたJapan - EBRD Cooperation Fund/JECFからの拠出)。

(3) 民間セクター

対BH海外直接投資は金融分野に集中

19日付当地電子メディアによれば、BH中央銀行が発表した2014年～2017年の対BH海外直接投資総額順位は、1位がオーストリア、2位はクロアチア、3位はセルビアとなった。オーストリア及びクロアチアからの投資は金融及び保険分野に集中しており、投資総額の内、オーストリアの60.4%、クロアチアの46.4%が同分野向け。一方で、セルビアは、70%を情報通信分野に投資している。なお、製造分野向け投資は、オーストリアが25.7%、クロアチア19.6%、セルビア7.4%に留まった。

服飾大手「H&M」、BHに第一号店を開店

21日付当地紙によれば、世界62か国に4、

500店舗を構えるスウェーデンのファッション・ブランド「H&M」が、3月21日、バニャ・ルーカのショッピングセンター内に、BH第一号店をオープンする予定。

(了)